

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】生涯学習部 生涯学習課 中央公民館

会議の名称	令和7年度 茅野市公民館運営審議会 臨時会		
開催日時	令和8年3月2日（月） 午後7時～8時40分		
開催場所	茅野市中央公民館 1階 第1会議室		
出席者	藤田とし子議長 横井幸子副議長 千野憲一委員 松木美希委員 矢崎昌彦委員 島立幸男委員 松下雅子委員 鶴飼恭子委員 王谷洋平委員 五味清美委員 伊藤清子委員 東浦一雄委員 柳澤美奈委員 山田教育長 小池生涯学習部長 北澤市民環境部長 矢嶋生涯学習課長 宮下パートナーシップのまちづくり推進課長 木川中央公民館長 五味教育係長 上田主査		
欠席者	澤井久一委員、両角修委員		
公開・非公開の別	(公開) 一部非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
副議長	1 開会のことば ただいまから、令和7年度茅野市公民館運営審議会臨時会を開会します。		
議長	皆さんこんばんは。夜分お忙しい所お集まりいただきありがとうございます。欠席は2人だけということで、素晴らしい出席率で嬉しく思います。本日、分からないことも沢山ありますが、説明の途中でも分からない点が出てきたら、皆さんの思ったことを仰っていただきたいと思います。		
議長	2 教育長あいさつ それでは、教育長よりごあいさつをお願いします。		
教育長	皆さんこんばんは。貴重な時間にお集まりいただきありがとうございます。気候は4月並ということで、灯油に頼らず夜をゆっくり過ごせるかと思ったところ、また明日から寒くなるということです。今日の議題、一番のメインになりますが、中央公民館の組織の統合の話になります。結論から言うと、公民館をもっと活発にしていきたい、市の方ももっと支援をしていきたい。それが大きな意図になります。少子高齢化、茅野市も高齢化率は全国の中でも高く、それから入居率の低下、役員不足、ごみステーションの問題、防災の問題等、様々な問題がある訳ですが、その時代に適応した公民館活動をもっと盛んにしていただきたい、そんな思いから今日の内容になった訳です。もちろん公民館活動というのは、市から何かお願いして「ああしてほしい、こうしてほしい」というものではなく、それぞれ地域の方々の中から生まれた課題に対して、皆さんの力で自分たちの地域をよりよくしていくための活動だと考えております。今日も市のホームページで、白い発泡スチロールの出し方が変わったということを見ました。ご覧になった方はいらっしゃいますでしょうか。発泡スチロールの分別というのはとても大事ですが、地域の方々にまたひとつ課題が増えてしまったかなと私は思いました。知らな		

	<p>いために、きちんとごみを出せない方々が出てくると思うのですが、そういった意味も含めて、これから公民館活動をどうしていくかは大切になってくるかと思えます。今日は私たちもできるだけ分かりやすく、どのようにしていくかご説明したいと思えます。議長が仰るように、ご意見をお願いします。公民館活動がより活発になるようにということで、今までと何か変わっている訳ではありません。その点をご理解いただきたいと思います。生涯学習課長より詳しい説明がありますので、よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>3 会議の公開について それでは次に、会議の公開について事務局よりご説明ください。</p>
事務局	<p>本日の会議については非公開に該当する内容を含まないため、すべて公開としてよろしいですか。(全員承認) それでは本日の会議について公開とすることを決定します。 なお、今回は非公開基準に該当する案件はありません。</p>
事務局	<p><b>【審議会の成立報告】</b> 茅野市公民館運営審議会規則第3条の規定により、委員15名中13名が出席しており会議は成立しております。傍聴者はおりません。本日は組織統合の議題であるため、統合先の市民環境部より市民環境部長とパートナーシップのまちづくり推進課長に同席いただいております。</p>
市民環境部長	<p>皆さんこんばんは。日頃はパートナーシップのまちづくり推進課でも分館長主事連絡会や地区公民館について大変お世話になっております。ありがとうございます。4月以降はこれから話がありますように、パートナーシップのまちづくり推進課と中央公民館が一体となって地区を支援していくということになります。そういったことで、これからもお世話になりますが、4月から色々ご協力いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>皆さんこんばんは。パートナーシップのまちづくり推進課長の宮下と申します。4月から一緒になることで、市民活動や地域の活動、公民館活動が活発になればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>4 協議事項 (1) 中央公民館とパートナーシップのまちづくり推進課の組織統合について 協議事項に進みます。(1) 中央公民館とパートナーシップのまちづくり推進課の組織統合をお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>資料No.1に基づき、背景と目的について説明。</p>
議長	<p>ここで一度切らせていただいて、ご質問等ありましたらお願いします。</p>
議長	<p>少しお聞きしたいのですが、公民館の社会教育関係団体とありますが、ゆ</p>

	いわ一くについても同じ条件で使用してよろしいのですか。
中央公民館 長	現状では、両施設を使用している団体もあります。
パートナーシップ のまちづくり 推進課長	登録はそれぞれの施設にさせていただいております。ひとつの課になることで、今では両方の施設に登録して両方の施設を使われている団体について、制度上の登録もひとつにする等、これから検討していけたらと思います。
議長	ゆいわ一く茅野も使用料はかかるのですか。減免についてもいかがですか。
パートナーシップ のまちづくり 推進課長	ゆいわ一く茅野の登録団体であれば2分の1の減免になります。
中央公民館 長	その辺りは現状では今までと同様です。ただ、ゆいわ一く茅野は固有の登録の仕方があり、公民館の社会教育関係団体とは少し異なります。その辺りを同じにしていけるかこれから検討しないといけないかと思っています。
生涯学習課 長	そういうことを検討するために統合するという事です。
中央公民館 長	今までは2課がそれぞれ担当しており、話し合いがなかなか進みませんでした。それがまちづくりにも影響があったので、連携していくためにもこういった組織にしていきたいというのが主な背景です。
議長	社会教育法第 20 条に公民館のことが書かれていますが、ゆいわ一く茅野はどういった規程の施設になりますか。
生涯学習課 長	ゆいわ一く茅野は社会教育法上の施設ではないため、社会教育法には縛られない施設になります。
議長	そうなる、どうなるのでしょうか。
中央公民館 長	どういったら同じような形でできるか等、検討していかなければならないと思います。もしかすると一緒にできないこともあるかもしれません。
生涯学習課 長	それについては公民館運営審議会の皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。これまでも社会教育関係団体の登録についてご意見をいただいておりますので。
中央公民館 長	今、社会教育関係団体の登録更新の時期で書類をご提出いただいておりますが、社会教育関係団体の登録は3年に1度で、ゆいわ一く茅野は毎年登録が必要です。そういった違いもありますので、皆さんがどうしたら使いやすいのかこれから協議をしていきたいと思っております。この審議会でもかまいません

	<p>るので、どんどん意見をいただけたらと思います。</p>
生涯学習課長	<p>ひとつになったからといって全部が解決するわけではなくて、課題を解決するために組織が一緒になるということです。</p>
副議長	<p>今は説明会も登録申請も両方の施設ごとにあるのですが、それがひとつになるのであれば、利用される方たちは楽になると感じます。</p>
生涯学習課長	<p>そこをやらないと意味がないかなと思います。ひとつの課になったのに、それぞれで認定しているとなると。</p>
中央公民館長	<p>それも一緒にならないと意味がないですね。だったら組織統合しない方がいいくらい。利用者の目線を変えていくためのひとつの組織改革です。</p>
生涯学習課長	<p>やはりだいたいの利用団体は同じなんですよね。公民館の社会教育関係団体など、公民館を利用される方たちもゆいわーくを使用されるので、では、ゆいわーくと公民館の違いってなんなんだろうと思ってしまいます。</p>
委員	<p>それは皆さん悩んでいらっしゃると思います。説明だけではわかりにくい。</p>
生涯学習課長	<p>その点については我々もこれから皆さんと一緒に考えていけたらと思います。</p>
議長	<p>ゆいわーく茅野にも私たちのような審議会があるのですか。</p>
パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>ゆいわーく茅野には運営委員会がありまして、条例で設置したものではないのですが、色々な分野の20名程度の方がいて、団体の登録をどうするかというより、その基準を一緒に考えていただいたり、ゆいわーく茅野で実施するイベントについて皆さんでどう実施していくか考えていただいたりしております。</p>
生涯学習課長	<p>ゆいわーく茅野運営委員会は公民館運営審議会と同じようなものですが、公民館というのはやはり行政だけの物ではなく住民サイドのものになりますので、それを行政だけで運営してはいけないということで、住民参加の仕組みとして公民館運営審議会があります。ゆいわーく茅野も行政だけが運営するのではなくて、同じように行政と市民と社会福祉協議会の三者で運営していますので、その一環です。ゆいわーく茅野の市民側の参加者が運営委員会になります。</p>
委員	<p>この間の分館職員研修会では、後半は広報分科会に出席させていただいたのですが、それぞれの公民館の方々が大変力を入れて作られているのは分かったのですが、その中にもものすごく地域の学びがあり、顔を合わせて何かをしているということが分かりました。公民館ではただレクリエーションするだけというような、趣味ばかりのようなことが資料に書かれていますが、あの会を見るとそうではないなど。役員が回ってきた人は大変だと思います。しかも単年度制で毎年やることを回していくということで、ものすごく大変</p>

な事で、それこそ長軸な話とかはちょっとやりにくいかと思いますが、地域を結びつけるというのはすごくされているのか、実質そうになっているのかと思います。意図して結びつけようとしてはないにしろ、色んなイベントがあって顔を合わせて、周りの人同士が知り合っ。この間、うちの奥さんの実家で正月に獅子舞が回ってきてということがあって、子ども会がやってるのか公民館がやってるのか地区がやってるのか分からないんですが、それってイメージ的な学習っぽくはないかもしれないですけど、地域の中でのものすごく重要な学習活動になっているのではないかと思います。昔、矢島中央公民館長がいた頃、お宝マップを作ったり等、そういうことを、今、表に見えているのが公民館を使って何かしら趣味の講座や集まりをやるのが多いのかもしれませんが、各分館でもものすごくされているのかなど。そして、そこは色んな意味で個人の学びだったり、あまり目には見えないかもしれませんが個人の学びを社会に役立てている。逆に言うと、茅野市の場合はそれが当たり前すぎて、「当たり前で毎年やってることだ、持ち回りでやっていることだ」ということかもしれませんが、ものすごく重要な学びの機会、引き継ぎをして伝承していくという面ではものすごく重要なことをされているんだというのを感じました。私自身はアパートに20年いるので、そういった活動はまったくしていないのですが、ちゃんと根付いた普通の家に住んでる方は、そういうことをしっかりされているのではないかというのを、この間の分館職員研修会で感じました。

中央公民館  
長

ありがとうございます。今、例えば趣味で個人の学びをしたり、講座をするのは決して悪い事ではないと思っています。それがあからこそ繋がっていけるんです。だから、そればかりがいけないということではなく、これからも続けていく。実際に区の活動を辞めようというところや、公民館活動を辞めようというところが出てきています。役員のなり手がいないとか高齢化で大変だとか。これからもそういう懸念がどんどん出てくると思いますが、公民館としてはそれは少しでも止めなきゃいけない。だから、今ある活動は続けていただきたいと思います。先程仰られたように分館報を見ると、一生懸命皆やっているなと思いました。あんな風に活動していただけるというのは本当に嬉しいことで、やはり続けていただきたいなと思います。なおかつ、職員が連携してもっと地域に入って、「ああいうことやこういうことがあります」という情報を伝えていき、地域の皆さんと一緒に考えていく、話をしていくための組織改革だと思っています。今ここで皆さんが活動されている内容がいけないとかそういうことは絶対ありません。どんどん続けていただき、希薄になっている人との繋がりを持っていただきたいし、いつまでも元気で活動していただくことが、引いては健康長寿に繋がりますので、そういう意味もあります。

議長

今の論点2の⑦ですが、それはやはり今活動されている人にとっては、すごく胸が痛む部分でもあります。でも、普段の活動をしているからこそ、自分の生きがいなどを見つけて、館長が仰ったように健康でできるだけ長生きしようという気持ちがまず最初だと思いました。昭和53年にこの公民館が建ち、生涯学習都市宣言も行われ、趣味・教養、レクリエーションの活動や講座が多くなっているのは当然で、すごく素晴らしい事だと思っています。逆にそれを否定されたような気持ちです。

生涯学習課長	書き方でそういう風に読めてしまうんですが、決して否定してはおりません。
中央公民館長	それはやはりきちんと説明しないと誤解されてしまうので、私から申し上げましたが、趣味・教養、レクリエーションの活動や講座を決して否定するものではありませんし、絶対大事なんです。だから、それに加えて新しく、「こういうことがあります」というまちづくりに関する情報を、例えば皆さんの趣味的なことでもかまいませんし、そういった情報を提供していくような機会を作っていきたいと思っています。そのために市の体制を整えるということです。
議長	職員が公民館で活動されているところに来て、積極的に行っていくという意気込みがあるということですか。
生涯学習部長	勿論です。
中央公民館長	それがないとこの組織改革は意味がないと思っていますので。
生涯学習部長	ただ、どういった範囲でやるかというのはあり、基本的には自分たちの村を自分たちで作っていくというのが基本だとは思いますが、だからと言ってすぐにそういう意識になれるかというのはあります。ここで中央公民館が組織統合して一緒になって、それから地域に切り込んで行って、一緒にまずは始めるということだと思えます。しかし、その度合いについては地域の様子を見ながら、無理強いするような形になってもいけないので、まずは公民館でやってきた今までの蓄積を地域で活かして、光を当てたり公民館活動に引き込んで、そしてそれを区・自治会の活動にも繋げていきたいという気持ちなんです。
議長	では背景と目的の部分についてはここまでにして、続けて組織再編後の取組についてご説明をお願いします。
生涯学習課長	資料No.1に基づき、組織再編後の取組について説明。
議長	実際は変わらないということですか。
中央公民館長	体制は変わりません。今行っていることも大きく変わるということではありません。
生涯学習課長	それに加えて、各地区コミュニティセンターやゆいわーく茅野と連携をしていく部分を進めていきます。
中央公民館	今の中央公民館の体制と、ゆいわーく茅野のまちづくりの体制と、各地区

長	コミュニティセンターの体制を一体にするのが今回の大きな狙いです。そこにいる職員の資質が大切です。
生涯学習課長	職員も継続的に研修や学習をしてスキルを磨いていかなければなりません。
中央公民館長	担当する職員が、「それはやらなくていい」と言うようでは困りますので、どんどん実施していく、情報を提供していく等、一体的に取り組んでいきたいと思えます。
議長	区長の方たちも目いっぱい活動されていますよね。そういった方たちの負担にならないでしょうか。うちの息子も色々やらせていただきましたが、負担の軽減は無理だと感じています。
パートナーシップのまちづくり推進課長	今、区の役員の皆さんと役員の負担軽減について、市と一緒に考えていただいています。やって当たり前だと思っていたことが、「やらなくてよかったんだ、やり方を変えればよかったんだ」ということに気付いていただけるような協議の場を2年間やってきたのですが、4月以降新たな会議体を設けていこうと考えています。今度は公民館活動のことも一緒に取り入れながら、活動が大変だということだけでなく、自分たちの区はどんな魅力があるんだろうということに置き換えて考えていただくこと等を考えています。また、各区・自治会への加入促進を市民課の窓口で行っていただいているのですが、そこには入区案内のチラシがあるのですが、どうしても似たような内容になっているところ、公民館と一緒にすることで、その分館報などを見ていただくことも考えられます。市長部局で一緒にすることで連携が取りやすくなると、今の喫緊の課題である役員の担い手不足というところに一体になって取り組めるのが、組織統合の大きなメリットだと考えています。
中央公民館長	確かに区長の方たちは今やっていることで精一杯ということはあるので、あることを辞めていいのか、あるいは違うことをやるのか等、そういったことを話していただくことが大事かなと思います。
議長	区長と公民館長と両方いる区が多いかとは思いますが、区長と公民館長を兼ねるということであれば、少し話が見えるかとは思いますが、その辺の話は難しい話ですよ。
中央公民館長	その辺は、まずは話をしていくということが大事だと思います。今、公民館では各地区の分館長主事連絡会の会長を集めた連絡会長会が年に1回ありますが、市には区長会というものが別にあります。例えば、そういったところと一緒に「うちの区や地区をどうしよう」という話をする機会を作るのも一案だと思います。しかし、それをしたからといってすぐに効果が現れるものだとは思っていませんし、少しずつ変えていくということかと思っています。いけなければ、前に戻ればいいと思います。皆さんと話をすることで合意を得て考えることだと思います。しかしそれもやはり年月がかかることだと思います。そのため、続けていくのが大事になるかとも思います。公民館活動を続けて積み重ねることで繋がりが出来ており、今まで行ってきた公民館活動

に加えて、地域の課題について話す機会をこれからも公民館は提供していきたいと思います。

生涯学習課  
長

モデル区の会議の話がパートナーシップのまちづくり推進課の課長からありました。資料1 ページ目の論点①で書かせていただきましたが、議長の仰るように、区の中だけでは今の体制を変えるのは困難だと思います。ですが、そこをひとつの区だけでなく、例えば区長会で集まって色々な情報交換をすることで、今まで当たり前だと思っていたことについて、「うちの区ではとっくの昔に辞めましたよ」「え、そうだったの。じゃあやらなくてよかったのか」という気づきが実際にあります。区や自治会は市とは違う任意団体なので、あまり市が口を出してはいけないと思っていた節があるのですが、それではなかなか区の皆さんが変わり様がないということで、積極的に関わりを持ち出したのが、先程のモデル区の会議の話です。モデル区に集まっていた区長さん方には色々な情報交換をしていただいて、気になることがあったらそれを突っ込んで議論をして、「じゃあうちの区はこうやって変えてみよう」という取組を皆で共有することによって、「あそこの区でやってるならうちでもやってみよう」というように徐々に広げていく、そういったやり方しかないかなと思っています。館長が話したとおり、時間がかかることかとは思っています。

議長

質問でも意見でも、何か皆様からありますか。

委員

事務的なというか、行政としてという面での質問なのですが、例えば市の総合計画や予算の計上、評価という中で、教育と市民活動というのは分かれていたと思うのですが、組織が統合することによって、それらも統合されていくのか分かれたままなのかはいかがですか。

生涯学習課  
長

もちろん変えていかなければならない部分だと思います。

パートナーシップ  
のまちづくり  
推進課長

公民館の予算については、補助執行という形で教育委員会の事務を行うので教育費のままです。これはよほど補助執行の形を変えない限りはそのままかと思っています。また総合計画の中では、我々は今、自治と協働の創造という部分を担っていますが、公民館活動では自治と学びの提供という部分を担っている書き方をしていますので、もし計画になるかどういふ形になるか分かりませんが、今後何か形にしていくのであれば、今後はその部分はひとつにしていった方がいいかと思っていますし、次の総合計画では書き方が変わってくるかと思っています。

委員

かなり人口も減って、担い手も減って、もちろん市の職員さんもいて、集約化して効率化していくというのはすごく賛成ですし、致し方ないこともあって、その中でどうやっていくかということもあるのですが、やはりやるからには目標ではないですが、担い手不足を解決するためには、担い手となる人を増やすのか、例えば区や自治会すら統合していったら、担い手が少なくても回るようにするのか等、どういった形があるべきなのかまだ模索中だと思います。そのため、その辺りを何かしら定量的にモニタリングできるものが

	<p>あると、統合をしてよかったのか悪かったのか後から振り返れるようにしておくことができると思います。</p>
生涯学習課長	<p>その評価の仕組みも当然考えていかないといけないと思います。</p>
委員	<p>先程の区・自治会の役員の方が1～2年で任期を終えて、公民館の役員も主事をやって館長をやって終わりだという中で、地域課題を自分たちが解決しなければいけないと思って取り組める方は少ないと思うので、前任者から引き継いだことを何とかこなして行って役員を終える中で、どう地域の課題に着目してもらうかというところは、どれだけ市側の職員の方が継続的に関わり続けられるかかと思っています。</p>
生涯学習課長	<p>そういう意味で職員側の働きかけとして、情報提供や場の提供は必要になってくるだろうし、やはり1年の任期ではまず無理だし、かといって2年でも短いと思うので、その辺の仕組みを区の方で変えてもらうというところまで持って行けるかとも思います。この間の分館職員研修会での白戸先生の話の中で松本市入山辺地区の話がありましたけど、あれは既存の公民館ではないという話でした。既存の公民館だと縛られてしまうということだったので、やる気のある人たちがやっていると。以前中央公民館長だった矢島喜久雄さんがされている大沢区の活動なんかもそうだと思いますけど、本来は公民館活動は縛られているものでなくて自由なんだということを徐々に皆さんに取り戻してもらいたいという気持ちもあります。長時間かかる取り組みになると思います。</p>
委員	<p>論点⑬、⑭の辺りなのですが、役員の担い手がないというのが問題ということですが、その中に高齢者クラブが解散していったり愛の会が少なくなっていて、具体的な問題が明らかにあるんですが、この文章を読むと、一つの部署で完結しますとか、専門委員が対応してくれるというイメージなのですが、マニュアル化できないような難しい問題を専門委員が解決するというのはすごく期待されることではないかと思っています。⑯に具体的にどのような仕組みで実施するのかとありますが…。</p>
生涯学習課長	<p>まず、専門委員が解決するわけではありません。解決するのは、皆さん自身です。専門委員や市の職員は伴走支援で一緒に考えます。</p>
中央公民館長	<p>市の職員や専門委員は一緒にどうしようか考えていくということです。</p>
委員	<p>今仰ったような問題はとても大変だと思います。</p>
中央公民館長	<p>地域の色みたいなものもありますしね。</p>
委員	<p>以前もお話しましたが、区では退区する人が問題で、それをどうしていくかということで、区長さんは引継でもとても頭を悩ませています。何か指針</p>

	やマニュアルはないかと思いますが、期待したいというところがあります。
生涯学習課長	全国どこにいても答えがあるわけではないので、一緒に考えていきたいということです。ただ住民の皆さんの中だけではなかなか情報もないというところもあり、一緒になって考えていければということです。まだ答えはないところなんです、何とか見つけていければということです。
委員	お聞きして一番興味を持ったのは、区長さんたちはパートナーシップのまちづくり推進課が担当で、分館役員は公民館が担当だということなんです、公民館を見た時に、区はお金出すから公民館は良いように回してくれということで、全然交わることのなかった課がひとつになって両方を応援するという事になった時に、区の方に戻った時にそれらが交わるということです。例えば、公民館では人集めが課題だったので、PTA を中心に集めて親子でレクリエーションの内容をしていましたが、これからは公民館の持つ講座の内容も変わってくるのかなと思います。以前は講座の種類も多かったし、講座を変えれば対象者が違ってきて、年齢がPTA に集中するという事もなく、もう少し年齢の高い方を対象にした講座や、そうでない講座もあるなど講座の幅が広がったのですが、防災や空き家問題などを推進されていくことで講座の幅が広がっていくところに期待したいかなと思いました。
中央公民館長	そういった講座の情報もこちらから出していかなければと感じました。
委員	まだ具体的にどういったものかということではないですよ。
生涯学習課長	そうですが、仰っていただいた風にできればと思います。今、人集めが目的になってしまっていることがやらされ感に繋がっていると思いますし、必要性があつてそれをやっているのではなくて、やらなきゃいけないからやっているから、人が集まらないと思います。そういう悪循環になってしまっているから、今の講座は興味のある人がこれだけいるのでその講座をやりましょうと言ったら、自ずと集まってくるような。
委員	講座に参加する時、1人で参加するのは勇気がいるので、少なくとも2人くらい仲間があれば行きやすいし、それがコミュニケーションなんだけど、それさえも崩れて、誘い合う人もいなくて参加者が減るような感じで。鶏が先か卵が先かみたいな話ですが、何かコミュニティができてくれればいいなと思います。
生涯学習課長	そのためにも楽しいレクリエーションは必要だと思います。一緒に顔を合わせて集まってワイワイするような。
委員	私が常々思っていたことが、地区コミュニティセンターと公民館、それから公民館とゆいわーくが管轄が違うし、どういうものなんだろうなということです。地区コミュニティセンターでも公民館の仕事をしているけど、分りにくいということを感じていたから、一本化して、それから問題解決していくというのは良いことではないかと思います。やはり今、歳を取って思う

のは、災害が起きた時なんかは、お隣の方やできるだけ近い方はどんな方が住んでいるのか、顔が分かっていることがやっぱり命を救うことなのだなということです。この間の分館職員研修会での白戸先生のお話の中であったようにですね。顔が見える活動まではいかなくてもお茶飲むくらいでも良いのですが、そういうことが大事だなと常々考えております。一本化することで、皆様に話し合っ、良い方向に進んでいければいいなと思います。

生涯学習課  
長

その中で鍵になるのがやはり、自治の土壌を育む社会教育や学びになるのだなと思います。ありがとうございます。

委員

昭和 30 年代だと、地域を良くするというのはとても重要でしたが、今の時代はさらに良くするというのも重要ですが、悪くしないということも大事かと思ひます。後は、今は色んな方たちが義務感で頑張っているというかしがみついて踏み止まっているところを、「止めよう」となった瞬間に全部易きに流れるというか崩壊するというのは私も色々なところで見ているので、ともすると全部なし崩しになってしまうかと思ひます。かと言って、無理してる人に無理させ続けるのも困ったもので、色々悩ましい所はあると思ひます。よくする、踏み止まるということも重要なと思ひます。地域課題についても、最近よく聞く言葉ではあるんですけど、課題ってわざわざ言うべきところなのかなというのもあるのかなと。そうなってくると、地域課題だから学習して、学習会をしてとなると、余計に力を入れていくのが難くなるのかなと思ひます。公民館で集まってただダラダラ喋ってるだけでも、大事な地域の繋がりだったりするのかなと思ひます。それが無くなっていくことが一番の地域の課題なんじゃないかと思ひます。そんな部分の言葉の使い方も含め、易きに流れるのは困るのですが、気を楽にしてできるようになることや、統合することで、うまく協力しながら、市の方で仕組み作りをコントロールできたらいいのかなと思ひます。また、今地域を担っているが皆さん歳を取ってきている時代なので、皆が心がポキンと折れてしまうのでは困るので、そうならないようになればいいなと思ひます。

委員

理解するのが難しい話ですが、組織を改編する目的がそれなりにあるので、今まで別々の部署だったものを一元化して取り組むというのは効率化の面で賛成です。もう少し具体的に組織図として、誰かどのような仕事をするということが分かってくれば、市民がどこに行けばいいのかなど分かると思ひました。また、組織を変えることが皆に伝わると思ひます。そして、皆既存の形にこだわるところがありますが、将来に向かっては変えていかないと思ひます。若い人はどういう風に自分たちのまちを考えているのかという時に、ゆいわーく茅野という組織の中で活躍して、自分たちでまちづくりをしたり、周りで集まろうという新しい考えになってきているんです。だから、茅野市もある程度は既存の社会教育や公民館というのはこういうものだということから離れてやってみるといのは私はすごく良いのかなと思ひます。分かりづらいつわられたらそうなのですが、具体的に組織図を書いて、公民館で行っている文化芸術活動はそのまま続けるので、そういうことをしたい方はこちらへ、のようにつできたら良いと思ひます。ただ、生涯学習課の担当にならないといのが、二十歳の式典などの既存のものがなくなってしまうのかとも思ひますので、そこを具体的にしていればと思ひます。この会議の

皆さんも社会教育活動をされていますが、私はまちづくりの部門で活動させていただいておりますので、公民館とゆいわく茅野の両方に属して同じような活動をしている人がいれば情報交換できるし、もし地域に役立つのであれば役立てたいと思います。なので、最初は抵抗あると思いますが、具体的なことを言っていただいて、「今までのものが無くなる訳ではないのですが、皆さんの活動は今までどおりこういう課に行ってください」と言っていただけたらと思います。人口が減って年寄りが増えていく中で、既存のやり方でやっていくというより、新しいやり方ができればと思います。例えば、若い人がゆいわく茅野で活動されている方が多いのですが、私たちのグループでは一生懸命子育て団体の人とかに声をかけて入ってもらえたらと思ってるのですが、公民館よりはゆいわく茅野の団体に声をかけてみたいと思っています。そういう連携の場になればと思います。

生涯学習課  
長

総合教育会議の時に、教育委員の方々からちゃんとPRをした方がいいのではないかと仰っていただきました。ただ自治・協働課になっただけだと何も分からないということで、その意味合いや具体的にこうなるというようなことを提示しないといけないと思っています。

委員

私も組織を一本化することは良いと思います。私たちの団体は公民館に属しているのですが、何かお手伝いをしなさいというのはありますが、具体的に地域に出て行って何かするという時は、ただ言われているだけだと行動できないし、何かやりたいとは思っています。そういう部分は職員の方がお手伝いしていただいて、「こういうことがあるのでこういうことを手伝っていただきたい」等話していただけたらと思います。今、区の話が出たのですが、今は区から抜きたいというのはすごく多いんです。「なんで？」と言うと、「役をやりたくないから、入ってるメリットが感じられないから、だから抜きたい」。お金だけ取られて何もなくていい。これではダメになりますよね。茅野市がもうダメということではありませんが、そういう方が多いです。どうしてそんなことを考えるのかなと思うのですが、やはり歳を取って自分の体のことで精一杯の人が多くいますよね。年齢が上がると、自分の健康維持が第一で人のことまで面倒見切れないというのはあると思います。そんなことばかり言っていてはいけないとも思いますが、実際にそういう方もいらっしゃいます。年齢的に色々あっても、自分が元気で市に迷惑かけないように生きたいなと思ってる方もいるとは思いますが、財産区の有る無しなど、区の状態もあります。財産区の有る無しも新しい区と昔からある区で違いますし、区の数として、みんな同じ状況ではないと思うんです。

委員

昨日、分館の公民館の館長と区長と話をする機会があって、今、地区公民館のことが負担だというのがはっきり出てきています。負担感があるということがまずひとつ。それから、統合という問題について各区の公民館や区長たちに十分周知できているのかということも思いました。

中央公民館  
長

公民館に関しては、私は年度当初の各地区の分館長主事会に出向いて行って、そこで今年は統合していきますと、今回の会議ほど詳しくはないですがご説明差し上げました。なおかつ、連絡会長会という各地区の分主会長が専門委員と共に集まる会議があり、そこでもご説明差し上げました。どれだけ

知っているかというか、まだまだ知らない人がいるのではないかと思います。ただ、この動きを先程仰っていただいたように組織を示したり、具体的にこうですということを知らせていくというのは必要だと考えています。いきなりコロっと何もかもが変わってしまうということはありませんので、少しずつでも周知をしていって、「こういうことをやりたいのだけどどうすればいいんだろう」という声がきちんと今後に繋がっていくような体制や仕組みをきちんと示していくことが大事だと思います。今までもこういうことを言ってきましたけど、不足しているということは否めないと思います。

委員

私はこの会議や違う会議にも出席して聞いていますが、実際に動いていただくのは各区の公民館である分館になりますので、分館が具体的に動くにあたってお互いの理解が十分進んでいないと絵に描いた餅になってしまうと思うので、周知を徹底していかなければならないと思います。

中央公民館  
長

逆に、情報共有という面で分館長主事連絡会の果たす役割は大きいのではないかと思います。そこに職員がしっかり関わって伝えていくというのが大事だと思います。

委員

各分館は、自分たちのこれまでの活動を行うので精一杯だと思うんですよ。各地区も住民の色々な仕事を抱えてやっていますよね。そうすると公民館でやろうとしていることが十分浸透するかということに対して危惧しています。その点も十分考えた上で活動していかないと、実にならないと思います。

中央公民館  
長

各地区には10地区に2人ずつ職員がいて、計20人で事務をしています。本館には8人、ゆいわーくにも10人程度職員がおります。今まではどちらかということ、うちはうち、という感じで交わることがなかったのですが、そこに行って皆で手伝うとか、お互いに連携をしていかないと大きな力にはならないと思います。私たちの期待する組織改革の大きな狙いでもあります。

委員

期待しています。

中央公民館  
長

すぐに、という訳にはいきませんが、徐々にできたらと考えております。

委員

自分は区の公民館長も区長もやりました。区長も1年の任期です。その前の年から次年度区長という扱いで2～3年は区行政を担当しました。それをまとめていただくのはコミュニティセンターです。パートナーシップのまちづくり推進課にはコミュニティセンターの所長会議がありますよね。公民館に関しても、コミュニティセンターの職員が関わっていますよね。分からなかったのですが論点⑩について、「パートナーシップのまちづくり推進課と中央公民館の連携体制がなかった」とありますが、コミュニティセンターは以前から両方の業務を担っていましたよね。で、ワンストップにするんでしょうか、ということなんですよ。区行政に対しても公民館活動に関してもコミュニティセンターが関わっていて、私が関わっているのはほとんどコミュニティセンターの方です。ゆいわーく茅野の方は施設を使用する関係で関わっているの、パートナーシップのまちづくり推進課が何をやっているのか

ははっきり言って見えないです。でも区に関してや地区の公民館に関してはコミュニティセンターのスタッフの方が出てくる。それに関してはコミュニティセンターにいる市の職員の方に依存しているところが結構あります。そして、一緒の組織になりますよという時に、今までだってコミュニティセンターの職員が関わっているので、何が違うのかなと思います。市の部・課長職の方が退職されたら、そのうち何人かは地区コミュニティセンターの所長になっていくと思います。この資料では考え方を変えなければならないとありますが、ワンストップにするのでしょうか、というのはそのひとつの問いかけです。ワンストップにしていざしたら、区の行政にしても公民館の運営にしても窓口が一緒だったらありがたいですし、公民館やゆいわーく茅野を使う団体としては、ワンストップになればありがたいですというのが率直な感想です。勉強会や地区の事だったりというのは、今後は考え方を改めて、老人が中心になってやっていくしかないだろうと思います。だから、老人を引っ張り出そうよという考え方をしていけないと若い人に期待したって出てきてくれないです。なので老人が中心になってできるような行政を目指していただければ。相談に乗ってくれるところやお世話してくれる人を勉強会で育てたり、市の組織統合で一本化していただくことでサポートできるということを伝えていただければと思います。論点⑩については、コミュニティセンターの職員がいますので、ひょっとしたら連携してたんじゃないのかなと思います。「公民館活動及び地区コミュニティ活動を支援する組織を一本化し」とありますので、ワンストップ化するという事ではないのかなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

生涯学習課  
長

仰る通りコミュニティセンターでは一本化されていますが、公民館を所管する部局と区行政を所管するパートナーシップのまちづくり推進課の間で連携がなかったという状況です。そのため、中央公民館から地区主事が言われている業務についてコミュニティセンターの所長が知らなかったりすることがままあり、また二人で一緒になってやるべきところ、コミュニティセンターによっては所長は分主会に出ない等がありました。その辺りは二人でやっていくということで組織を一本化することで徹底をしていきたいと思えます。コミュニティセンターはワンストップの窓口になります。

委員

「区・自治会の存続は茅野市にとって非常に重要な課題」という論点②の部分ですが、自分の住んでいるところを考えてみても、お年寄りには色々なできないからと言って退区される方もいますし、新しく家を建てて引っ越して来られる方にしても入られない方も結構います。区に入らないことが悪いというより、区に入ることと入らないことで、それぞれメリットとデメリットがどのようにあるかと考えていました。難しい話ですが。やはり人との繋がりがすごく大事ななと思っていますが、区に入るとどうしても役が回ってくるという大変さを大きく感じる方がたくさんいるのかなと感じています。その部分が3ページに書かれている「地域課題解決の日常化」にあるように、「既存のレクリエーション活動を大切にしながらも、防災や福祉といった身近なテーマでの『学習会』を」とあるのですが、そういうことも大事ななと思いつつ、役員を担ってくださる方たちが「あれもやらなきゃ、これもやらなきゃ」と負担が大きくなってしまわなければいいなと思います。また、それが各区に伝わっていることが大事ななと思います。以前から区で伝わって

いたり大事にして続けていること等もありますので、皆が同じく一斉にという訳にはいかないと思っていますところ。自分ごととして捉えるというのは難しいなと思いますが、人とのつながりができると、自分も区の一員なんだなと思えたり、他の人たちのために自分ができることは何だろうと考えられるかなという気もしています。

委員

学校の立場で考えておりましたが、小中学生が「参加」ではなく「参画」を、と言われるのですが、区との関わりの中でお客さんになってしまっているのが今であると感じています。どうやったら参画するんだろうというのを考えているのですが、中学校では呼んでいただくと参画しているような気になるのですが、どうやってそれを継続していくかということもあります。学校の中で一生懸命やってくれる先生がいると、生徒も一生懸命やってくれるのですが、その先生がいなくなると途切れてしまうというのがあります。また、これから部活動がなくなって地域クラブでお願いしたいという話になってきていますが、地域で受け入れる時に、やはり今まである地域の公民館で活動されているサークル等に中学生が入っていければいいなと思うのですが、小学生と意識の違いがあって、変えていけないといけないかと思います。学校単位じゃなくて、地域の子としてどうやって関わるのかということになると、その子が大きくなってからもその地域に何ができるか等のかかわりが出来るかと思いました。今、区を辞めてしまうという話を聞いて、最近学校でよく聞くことに、PTA を離脱する等の話があります。大変で負担感を感じてしまうと辞めてしまうという方が多くなってしまいますので、その負担感が何なのか考えていかなければいけないと思います。何が負担感なのかな？となった時に、やはりなんとなく知らないから大変そう、というのがひとつだと思います。そして、相談できる人がいれば、やってみたら大変じゃないということがありますので、先程から出ている繋がりのようなものがあると、不安が減っていき、負担感が軽減されるのではと思っています。学校の中でも悩んでいることではあるので、引き続き考えていきたいなと思いました。

生涯学習課  
長

今、仰られたことはとても大事で、学校の子どもたちとどのように関わっていくかについて、学校を卒業してしまったら終わり、という話ではなくて、「その地域の子」として関わるのが大事なのではないかと思います。しかし、その機能は今の区にないものだと思います。小学校や中学校との関りはPTA と親子活動のみで。でもそうではなくて、例えば区の村まつりに中学生として関わってもらおうということをどんどんやっていかないといけないと思っていますところ。そうでないと、子どもは小学校の時はPTA の子どもの行事で出てくるけど、中学校に行ったら部活で忙しくなって出てこなくなって、高校に行ったら市外に出ってしまうので余計に地域から離れてしまいます。そして、地域のことを何も知らないままで、知らないが故に、この地域は何もないから東京に行ってしまうということになりますので、帰ってくる訳がないということだと思います。今仰られたように、その地域の子として働きかけをしていくことをやっていければと思います。

議長

全員の発言をいただき、様々な意見を出していただきありがとうございます。大変参考になったと思います。前向きに進めていけますようによろしくお願ひいたします。

生涯学習課 長	今後ともよろしく願いいたします。
中央公民館 長	これで終わりではなく、これからまた色々なご意見をいただきたいと思いますので、私たちの活動をよく見ていただいて、何かあればどんどん仰っていただきたいと思います。私たちも皆様にご相談していくこともあろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。
生涯学習課 長	一緒に考えていきたいと思っております。
議長	では、この件については終わりたいと思っております。
議長	5 その他 その他について事務局よりお願いします。
事務局	公民館使用のてびき（最新版）、第4回茅野市公民館運営審議会開催通知、報酬・旅費、第72回茅野市公民館分館職員研修会資料について説明。
生涯学習課 長	補足ですが、今日の問題を3月の市議会で木村かほり議員が質問されております。テレビだけでなくビーナネットでも配信されますので、またご覧いただきたいと思っております。
議長	6 閉会のことば それでは、閉会のことばを副議長からお願いします。
副議長	以上をもって、令和7年度茅野市公民館運営審議会臨時会を閉会します。  ～午後8時40分 会議終了～